

(第3種郵便物認可)

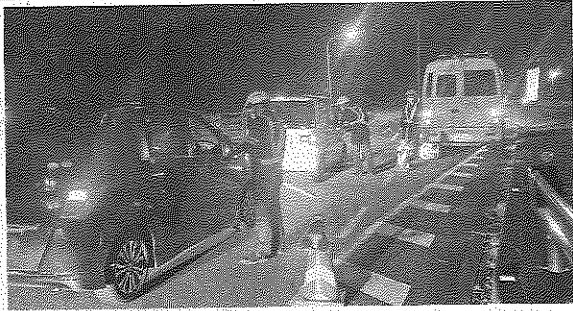
# 飲酒運転摘発 104件増

## 前年同期比 県警 年末へ警戒強化

県内で飲酒運転の摘発が増えている。10月末時点で337件(暫定値)と前年同期比で104件増加。新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言などがなく、緩和ムードが広がっているのが一因とみられる。飲酒がらみの死亡事故も10月以降は多発しており、忘年会シーズンを前に県警は警戒を強めている。

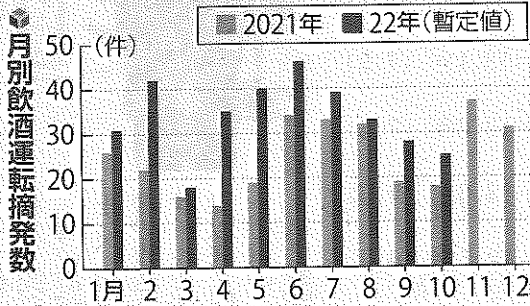
(河野圭佑)

「止まってください」「飲酒運転が増えていきますから、気をつけて」



飲酒の「ゲリラ検問」を行う津警員ら(7日夜、津市で)

7日夜、津市内の複数箇所で行われた「ゲリラ検問」を実施。ドライバーらに声をかけて、酒を飲んでいないかを確認していた。同署



の添誠・交通2課長は「事故の通報を受けて現場に駆けつけると、当事者がお酒を飲んでいて、このケースが目立ってきている」と気を引き締める。

県警によると、飲酒運転の摘発件数は10月末までの337件と、昨年全体の301件を既に上回った。

飲酒運転による人身事故も今月7日現在で32件(暫定値)と、前年同期比で14件増えており、昨年は10月末までにゼロだった死亡事故も4件発生し、5人が亡くなっている。

このうち3件は10月に発生。29日には桑名市の会社員の男(31)が、同市内で歩行者に重傷を負わせ、逃げようとした。飲酒の発覚を恐れて逃走するケースも少なくない。コロナ禍で飲食店の営業時間が短縮されるなどした影響で過去2年は飲酒運転

などは減っていた。現在は行動制限などもなく、通常営業する飲食店も多いことが背景にあるとみられる。

県警交通部のある幹部は「ドライバーにどこで飲酒したか話を聞くと、以前は自宅やコンビニが多かったが、今は居酒屋やスナックの帰りがたという人が増えて

いる気がする」と話す。今月3日の深夜に四日市市内で衝突事故を起こした志摩

市の建築業の男(54)は「四日市の飲食店でビールを5、6杯飲んで帰る途中だった」と供述している。

県警は国道23号などの電光掲示板に「飲酒運転 家庭崩壊 人生転落」など強い文言を表示して訴えたほか、飲食店が多く集まる繁華街や、夜間の人通りが多い場所での取り締まりを強化している。

## 昨年交通死 最少62人

県内で昨年発生した交通事故による死者数は62人で、統計を取り始めた1954年以降、最少だった。今年の死者数は、7日時点で49人と前年同期比で同数となっている。

今年1月に死亡事故が相次いだものの、その後は減少して、5、6月には死者数が前年同期比でマイナス5人程度で推移。ただ、飲酒運転による死亡事故の増加などもあり、前年並みとなっている。県警交通企画課の伊藤誠司次長は「飲酒運転は悲惨な結果を招く重罪。不幸な被害者や遺族が出ないよう徹底的に取り締まる」と強調している。